# 奈良国立文化財研究所要項

## 一、調査研究概況

### A 総合研究

1 平城宮跡発掘調査

本年度は第29～39次の8回にわたつて調査をおこなつた。（本文35頁以下参照）

2 西大寺の研究

9月20日―25日、大阪大丸において、開創千二百年を記念する西大寺展が開催されたが、美術工芸研究室では、従来の調査の成果に基き、その展観を指導し協力した。また前年度にひきつづき西大寺末寺帳によつて、志布志宝満寺、豊後金剛宝戒寺、永興寺、尾道浄土寺、讃岐鷲峯寺、住吉荘厳浄土寺、山城浄瑠璃寺、金蔵院、奈良世尊寺などの地方末寺について調査した。

### B 各個研究

Ⅰ 美術工芸研究室

1 美術工芸作品の伝統的系譜の研究

工芸作品の各分野にわたつて伝統的系譜のたどれるものは、その素材、技術、意匠である。前年より引続き意匠の面において、これを調査し資料蒐集中である。

2 厨子の研究

今年度より念持仏納入厨子を調査している。これは単に工芸作品として観賞するのみでなく、作品の基盤にある仏教思想にある。したがつて、その史料の蒐集と作品の工芸的資料の蒐集を行つている。

3 依頼調査

文化財事務局美術工芸課の依頼によつて、大阪四天王寺蔵の重文舞楽装束の修理調査及び、唐招提寺、西大寺、藤田美術館蔵品の指定予備調査に参加した。

4 南都仏教絵画の研究

前年度にひきつづき、南都仏画の作風と絵仏師の動向を中心に研究を行うもので、極楽坊、興福寺、薬師寺、宝山寺、額安寺、浄土寺、新大仏寺、誕生院などについて調査をおこなつた。

5 堂塔壁画の研究

X線、赤外線などによる分析写真撮影をふくめ豊後富貴寺大堂（本文11～13頁参照）、興福寺三重塔、南円堂、浄瑠璃寺三重塔などについて調査を行つた。

6 仏像納入文書の調査研究

昨年に継続して興福寺旧食堂千手観音立像など5例について調査するとともに、蒐集資料の整理と検討を行つた。

7 奈良様彫刻の研究

南都造像史研究の一環として奈良様彫刻の形成と伝流について調査研究するもので、昨年度に継続して中世における南都の仏師、康慶、運慶、湛慶、康円等に関する資料を蒐集し、検討を加えた（本文14～17頁参照）

8 その他の調査研究

指定調査に協力して福井県中山寺ほか10ヶ寺の調査、また正倉院伎楽面の実測調査（建造物研究室と共同で写真実測調査）等を行つた。

Ⅱ 建造物研究室

1 文化財建造物（民家）緊急調査

文保委事務局建造物課の計画による全国民家調査の一環である。本年度は奈良県下の民家調査を県文化財保存課に協力し、工藤圭章が主任調査員となつて実施した。調査件数は従来の調査資料をくわえ約470件で、うち特に重要とみとめられたものは30棟ほどである。その内には16世紀に建立されたとみられるものや環濠のある大和棟の農家をふくめ奈良盆地の平野部・東部山間部・吉野地方のそれぞれ各年代にわたる代表例をほゞ捕捉することができた。

2 唐招提寺講堂の調査

平城宮朝集殿復原模型製作の基礎資料を得るための調査で、特に講堂創建時および前身建物時の部材・関係痕跡・その他関係寸法の実測をともなう調査をおこなつた。調査の結果にもとづき朝集殿の復原案を検討中である。

3 平城宮建物復原設計

平城宮内裏東第一殿・第二殿・同掘立柱回廊・同築地回廊南辺および閤門等につき、資料収集・復原設計・製作指導にあたつた。（詳細は本文27～30頁参照）

4 中世建築の細部資料蒐集

今年は特に大仏様形式の木鼻について、資料蒐集を開始し、奈良県下の建物を中心にして実測と

拓本作製および写真撮影をおこなつた。

Ⅲ　歴史研究室

1　仁和寺の研究

従来よりの継続調査を行い、塔中蔵収納の古文書・聖教類の調査は今年度をもつて完了した（主なものの一部は23頁以下に紹介）。また『仁和寺史料　寺誌編二』の出版準備を進め、その原稿を作製した（昭和42年度刊行）。

2　南都諸大寺関係文書の調査研究

寺外に流出した古文書およびその他の史料中に見られる諸大寺関係資料の蒐集を行つた。主なものは尊経閣文庫所蔵文書および勘仲記紙背文書であるが、その他史料編纂所および京都大学文学部国史研究室架蔵影写本を調査した。

Ⅳ　文部省科学研究費による研究

蘇悉地羯羅経と儀軌類の研究　　真鍋俊照

この経典の基礎資料を蒐集し、東寺、石山寺所蔵の白描図像を調査した。成果の一部は、「密教文化62号、仏教史学12巻4号、印度学仏教学研究41年2号（英文）」参照。

律令財政の運用に関する研究　　横田拓実

正倉院文書を中心に、造寺司の財政運用の実態を明らかにすることによつて、律令財政の一端を考察し、あわせて同文書の写本の調査を行つた。

古代官瓦窯の研究　　河原純之

平城宮跡と同種の瓦が出土する瓦窯跡の分布を調べ、藤原宮式・平城宮式瓦に関する資料を蒐集した。

古代の土地開発についての考古学的研究　　八賀　晋

美濃・河内・大和・摂津・山城・丹波地方の古代の土地開発に関する土壌類型群と遺跡の関係を調査し、その水田開発過程を検討した。

地形調査による東大寺天地院の復原的研究　　森　蘊

伝天地院跡について東大寺東方山中の地形と春日山中の香山堂跡を実測調査した。成果の一部は「南都仏教20号」参照。

日本古代建築の部材構成に関する研究　　沢村　仁

営造方式の研究に関係する資料を蒐集し、唐招提寺講堂その他を実測調査した。成果の一部は「仏教芸術64号」参照。

**C　調査指導**

兵庫県田能弥生式遺跡の発掘調査　昭和41年4～5月

尼崎市主催。前年度に引続き平城宮跡発掘調査部員が多数参加し、第五区の調査を指導した。

神戸市五色塚古墳の実測修景調査　昭和41年6月以降

市教委主催。牛川喜幸、西谷正等が、史跡公園化に伴う調査の指導に当つた。

京都市六波羅密寺の発掘調査　昭和41年6月

府教委主催。本堂（重要文化財）の解体修理に伴う地下遺構の発掘調査を鈴木充が指導し、前身建物の存在を確認した。

奈良国立博物館新館予定地の発掘調査　昭和41年7～8月

奈良博主催。新館建設に伴う予定地の発掘調査を河原純之が指導した。

富山県越中国分寺の発掘調査　昭和41年8月

県教委主催。工藤圭章が発掘調査を指導した。

鳥取県大寺廃寺の発掘調査　昭和41年9～10月

県教委主催。前年度に続き鈴木充、藤井功、横田義章等が調査を指導し、東向きの伽藍配置を確認した。

石川県末松廃寺の発掘調査　昭和41年9～10月

野々市町教委主催。高堀勝喜氏担当。史跡公園化に伴う予備調査を河原純之、村上訒一等が指導し塔、金堂跡を検出した。

奈良市大安寺の発掘調査　昭和41年9～11月

県教委主催。杉山信三、八賀晋等が指導して、講堂跡、鐘楼跡などの検出に努めた。

奈良県法隆寺新宝庫建設予定地の発掘調査　昭和41年10月

法隆寺主催。本村豪章、山沢義貴等が新宝庫建設予定地の発掘調査の指導を行つた。

福井県大虫廃寺の発掘調査　昭和41年11月

武生市教委主催。斉藤優氏担当。工藤圭章、工楽善通等がこの調査を指導し、塔基壇の存在を確認した。

福岡県一ノ上遺跡の発掘調査　昭和41年12月～42年1月

福岡県史跡調査会主催。福岡県住宅供給公社都府楼団地建設に伴う予定地の発掘調査を、田中琢、三輪嘉六等が指導した。

宇治市浄妙寺跡の発掘調査　昭和42年2月

市教委主催。杉山信三が調査指導を行つた。

高槻市安満弥生式遺跡の発掘調査　昭和42年2月

大阪府教委主催。西谷正、高島忠平等が参加し、

住居跡、木棺、墓拡などを検出した。

京都市鳥羽離宮跡の発掘調査　昭和42年2月府教委主催。昭和38年度以来の継続調査で、杉山信三、藤原武二等が指導し、今年度は寝殿跡が出た。

京都市樫原廃寺の発掘調査　昭和42年2月以降府教委主催。京都市住宅供給公社の樫原団地建設予定に伴う緊急調査。杉山信三、佐藤興治等が指導して、八角塔の瓦積基壇、中門跡等を検出した。

奈良県藤原宮跡の発掘調査　昭和42年2月以降県教委主催。国道165号線橿原バイパス建設予定に伴う緊急調査。沢村仁、猪熊兼勝等が指導し、推定内裏の一部を発掘調査して、多数の掘立柱建物・溝遺構・木簡を検出した。

**D　研究発表**

1　昭和41年5月28日（於本所）

小堀遠州の芸術について　森　蘊

古代における水田の開発　八賀　晋

2　昭和41年11月5日（於平城宮跡発掘調査事務所）

最近の発掘調査について　横田義章

出土木簡について　鬼頭清明

現地説明（第36次発掘調査）　栗原和彦

3　昭和42年3月25日（於平城宮跡発掘調査事務所）

第36・38次発掘調査結果について　松下正司

第39次発掘調査結果について　森　郁夫

現地説明（第39次発掘調査）　同

**E　昭和41年度文部省科学研究費交付金による研究**

| 研究課題 | 種類 | 研究担当者 | 交付金 |
|---|---|---|---|
| 蘇悉地羯羅経と儀軌類の研究 | 各個研究 | 真鍋俊照 | 50,000円 |
| 律令財政の運用に関する研究 | 〃 | 横田拓実 | 100,000円 |
| 古代官瓦窯の研究 | 〃 | 河原純之 | 120,000円 |
| 古代の土地開発についての考古学的研究 | 〃 | 八賀　晋 | 100,000円 |
| 地形調査による東大寺天地院の復原的研究 | 〃 | 森　蘊 | 130,000円 |
| 日本古代建築の部材構成に関する研究 | 〃 | 沢村　仁 | 260,000円 |

## 二、組　織

**A　文化財保護法　抜萃**（昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号）

第二十条　委員会の附属機関として、文化財専門審議会、国立博物館及び国立文化財研究所を置く。

第二十三条　国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う。

2　国立文化財研究所の名称及びその公表を行う。

| 名称 | 位置 |
|---|---|
| 東京国立文化財研究所 | 東京都 |
| 奈良国立文化財研究所 | 奈良市 |

3　国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

4　国立文化財研究所及びその支所の内部組織は、委員会規則で定める。

**B　奈良国立文化財研究所組織規程**（昭和二十七年三月二十五日文化財保護委員会規則第五号）

沿革

昭和二九年六月二九日文化財保護委員会規則第一号、三六年九月一五日第二号、三八年四月一〇日第四号、三九年三月三一日第一号、四〇年三月三一日第二号改正

（奈良国立文化財研究所の組織）

第一条　奈良国立文化財研究所の所掌事務を分掌させるため、庶務課、次の三室及び平城宮跡発掘調査部を置く。

美術工芸研究室

建造物研究室

歴史研究室

2　平城宮跡発掘調査部に、その所掌事務を分掌させるため、次の六室を置く。

第一調査室

第二調査室

第三調査室

第四調査室

保存整理室

史料調査室

（庶務課の所掌事務）

第二条　庶務課においては、次の事務をつかさどる。

一　別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。

二　公文書の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。

三　経費及び収入の予算、決算その他会計に関すること。

四　行政財産及び物品の管理に関すること。

五　職員の福利厚生に関すること。

六　前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属し

ない事務を処理すること。

（美術工芸研究室の所掌事務）

第三条　美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他建造物以外の有形文化財及び工芸技術に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

（建造物研究室の所掌事務）

第四条　建造物研究室においては、建造物に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

（歴史研究室の所掌事務）

第五条　歴史研究室においては、考古及び史跡に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

（平城宮跡発掘調査部の六室の所掌事務）

第六条　第一調査室、第二調査室、第三調査室及び第四調査室においては、所長の定めるところにより分担して、平城宮跡の発掘及び調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

2　保存整理室においては、平城宮跡の遺構及び遺物の保存整理及び調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

3　史料調査室においては、平城宮跡に関する史料の収集及び調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

（所長）

第七条　奈良国立文化財研究所に所長を置く。

2　所長は、所務を総理する。

附　則

この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

（中　略）

附　則

この規則は、昭和四十年四月一日から施行する。

## 三、研究成果刊行物

### 奈良国立文化財研究所学報

| 年度 | 名称 | 担当者 |
|---|---|---|
| 昭和29年度 | 第一冊　仏師運慶の研究 | 小林　剛 |
| | 第二冊　修学院離宮の復原的研究 | 森　蕭 |
| 昭和30年度 | 第三冊　文化史論叢 | 小林　剛・森　蕭・杉山信三・田中一郎・田中稔 |
| 昭和31年度 | 第四冊　奈良時代僧房の研究 | 浅野　清・鈴木嘉吉 |
| 昭和32年度 | 第五冊　飛鳥寺発掘調査報告 | 浅野　清・杉山信三・坪井清足・鈴木嘉吉 |
| 昭和33年度 | 第六冊　中世庭園文化史 | 森　蕭 |
| | 第七冊　興福寺食堂発掘調査報告 | 坪井清足・鈴木嘉吉 |
| 昭和34年度 | 第八冊　文化史論叢 | 小林　剛・守田公夫・浜田　隆・杉山二郎 |
| | 第九冊　川原寺発掘調査報告 | 杉山・坪井・鈴木・田中(稔)・工藤・田中(琢) |
| | 第十冊　平城宮跡Ⅰ・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告 | 杉山・坪井・鈴木・工藤・田中(琢)・岡田・岩本 |
| 昭和35年度 | 第十一冊　院家建築の研究 | 杉山信三 |
| 昭和36年度 | 第十二冊　巧匠安阿弥陀仏快慶 | 小林　剛 |
| 昭和37年度 | 第十三冊　寝殿造系庭園の立地的考察 | 森　蕭 |
| | 第十四冊　「レース」と「金亀舎利塔」に関する研究 | 守田公夫 |
| | 第十五冊　平城宮発掘調査報告Ⅱ —官衙地域の調査— | 坪井・鈴木(嘉)・田中(稔)・工藤・田中(琢)・岡田 |
| 昭和38年度 | 第十六冊　平城宮発掘調査報告Ⅲ —内裏地域の調査— | 狩野・河原 |
| 昭和40年度 | 第十七冊　平城宮発掘調査報告Ⅳ —官衙地域の調査2— | 榧本・坪井・田中(稔)・工藤・沢村・田中(琢)・岡田・狩野・河原・岩本 |
| | 第十八冊　小堀遠州の作事 | 森　蕭 |

### 奈良国立文化財研究所史料

| 年度 | 名称 | 担当者 |
|---|---|---|
| 昭和29年度 | 第一冊　南無阿弥陀仏作善集(複製) | 田沢　坦 |
| 昭和30年度 | 第二冊　西大寺叡尊伝記集成 | 小林　剛 |
| 昭和38年度 | 第三冊　仁和寺史料　寺誌編一 | 田中　稔・狩野　久 |
| 昭和39年度 | 第四冊　俊乗坊重源史料集成 | 小林　剛 |
| 昭和41年度 | 第五冊　平城宮木簡　一 | 田中(稔)・田中(琢)・狩野・原・横田(拓)・鬼頭・加藤 |

## 四、職　員（昭和42年11月現在）

| 所属 | 氏名 | 官職 | 担当 |
|---|---|---|---|
| 庶務課 | 小林　剛 | 文部技官　所長 | |
| | 新山　忠弘 | 文部事務官　課長 | |
| | 国井　和朗 | 同　課長補佐 | 平城事務 |
| | 西村　県治 | 同　専門員 | |
| | 岩本　次郎 | 同　庶務係長 | 庶務・図書 |
| | 坂口　義尚 | 同　会計係長 | 会計 |
| | 八幡　扶桑 | 文部技官（併） | 写真 |
| | 井上　政和 | 文部事務官 | 庶務 |
| | 加藤　建夫 | 同 | 会計 |
| | 丹阪　信次 | 同　警務員長 | 平城警備 |
| | 木寅　忠雄 | 警務員 | 同 |
| | 森田　光治 | 同 | 警備 |
| | 岡田　博旡 | 同 | 自動車運転 |
| | 西田　健三 | 技能員 | 同 |
| | 中西　建夫 | 同 | 写真 |
| | 渡辺　衆芳 | 技術補佐員（非常勤） | 資料整理 |
| | 松尾　妙子 | 同（同） | 図書資料 |
| | 高木　紘子 | 事務補佐員（同） | 庶務 |
| | 松本二三子 | 同（同） | |
| | 広野　克子 | 同（同） | 同 |
| | 米山ゆう子 | 同（同） | 会計 |
| | 高橋　靖子 | 同（同） | 同 |
| | 山下　久子 | 同（同） | 同 |
| | 梶　幸治郎 | 技術補佐員（同） | 平城保安 |
| | 脇本みよ子 | 事務補佐員（同） | 平城事務 |
| | 東田すみ子 | 同（同） | 同 |
| | 城本きよの | 庁務補佐員（同） | 同 |

| 所属 | 氏名 | 官職 | 担当 |
|---|---|---|---|
| 美術工芸研究室 | 守田　公夫 | 文部技官　室長 | 工芸 |
| | 平田　寛 | 同 | 絵画 |
| | 長谷川　誠 | 同 | 彫刻 |
| 建造物研究室 | 石沢　正男 | 研究員（非常勤） | 美術工芸 |
| | 伊藤　延男 | 文部技官　室長（併） | 建築 |
| | 沢村　仁 | 同 | 同 |
| | 牛川　喜幸 | 同（併） | 遺跡庭園 |
| 歴史研究室 | 宮沢　智士 | 同（併） | 建築 |
| | 田中　稔 | 同　室長（併） | 歴史 |
| | 田中　琢 | 同（併） | 考古 |
| | 狩野　久 | 同（併） | 歴史 |
| | 本村　豪章 | 同（併） | 考古 |
| | 河原　純之 | 同（併） | 同 |
| | 八賀　晋 | 同（併） | 同 |
| | 品田　譲 | 同（併） | 歴史 |
| | 新田　義円 | 研究員（非常勤） | 仏教史 |
| 平城宮跡発掘調査部 | 杉山　信三 | 文部技官　部長 | 建築 |
| | 守田　公夫 | 同（併） | 工芸 |
| | 伊藤　延男 | 同（併） | 建築 |
| 第一調査室 | 横山　浩一 | 同　室長 | 考古 |
| | 藤井　功 | 同 | 同 |
| | 宮沢　智士 | 同 | 建築 |
| | 猪熊　兼勝 | 同 | 考古 |
| | 高島　忠平 | 同 | 同 |
| | 阿部　義平 | 同 | 同 |
| | 小笠原好彦 | 同 | 同 |
| | 宮本長二郎 | 同 | 建築 |
| 第二調査室 | 沢村　仁 | 同　室長 | 建築 |
| | 牛川　喜幸 | 同 | 遺跡庭園 |

| 所属 | 氏名 | 官職 | 担当 |
|---|---|---|---|
| 第三調査室 | 本村　豪章 | 文部技官 | 考古 |
| | 三輪　嘉六 | 同 | 同 |
| | 石井　則孝 | 同 | 同 |
| | 横田　義章 | 同 | 建築 |
| | 村上　訓一 | 同 | 同 |
| | 田中　琢 | 同　室長 | 考古 |
| | 佐原　真 | 同 | 同 |
| 第四調査室 | 松下　正司 | 同 | 同 |
| | 藤原　武二 | 同 | 遺跡庭園 |
| | 玉井　力 | 同 | 考古 |
| | 伊東　太作 | 同 | 建築 |
| | 石松　好雄 | 同 | 考古 |
| | 杉山　信三 | 同　室長（併） | 建築 |
| | 八賀　晋 | 同 | 考古 |
| | 細見　啓三 | 同 | 建築 |
| | 工楽　善通 | 同 | 考古 |
| | 森　郁夫 | 同 | 同 |
| | 西谷　正 | 同 | 同 |
| 保存整理室 | 栗原　和彦 | 同 | 同 |
| | 坪井　清足 | 同　室長 | 同 |
| | 河原　純之 | 同 | 同 |
| | 町田　章 | 同 | 同 |
| | 佐藤　興治 | 同 | 同 |
| | 山沢　義貴 | 同 | 同 |
| | 八幡　扶桑 | 同 | 写真 |
| | 佃　幹雄 | 同 | 同 |
| 史料調査室 | 田中　稔 | 同　室長（併） | 歴史 |
| | 狩野　久 | 同 | 同 |
| | 横田　拓実 | 同 | 同 |
| | 鬼頭　清明 | 同 | 同 |
| | 加藤　優 | 同 | 同 |
| | 真鍋　俊照 | 同 | 同 |
| | 八十登美子 | 技術補佐員（非常勤） | 資料整理 |